

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)	良くなる	高級レストラン（スタッフ）	・10～12月はJ Rのデスティネーションキャンペーンの対象地域となるので、秋口からの受注が大幅に伸びることが予想される。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・大型アウトレットモールの開店により来客数が減少するかと思われたが、それほど影響を受けることはなかった。9月には近隣に新しい商業施設がオープンすることから、こちらにも客の流れが戻ってくるように思われる。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・夏休み、お盆休み、9月の大型連休など観光客の入込増加が期待できる。実際の予約状況も順調と聞いている。
		百貨店（売場主任）	・上海株の乱高下で景気動向については不透明な部分はあるものの、8月下旬に発売されるプレミアム付商品券が消費を刺激し、カンフル剤となることを期待したい。
		百貨店（営業担当）	・7月は当地においては、大型のアウトレットモールやショッピングモールといった大型商業施設が2つできた。8月には食を中心とした大型ショッピングセンターが開業する。当地全体では消費が活性化されるような気がするが、消費人口は限られており既存店舗では当然シェアの取り合いになる。全体的には上昇するが、個々にみると優劣が出てくる先行きではないかと考えている。
		百貨店（営業担当）	・プレミアム付商品券の発売を控えており、商品券を買い求めた分、客は消費をしてくれると考えられ、良くなると予測する。
		衣料品専門店（経営者）	・先々に期待をしている。物価上昇、税金類の支払増など、一般消費者の環境は良くなっているとはいえないが、北陸新幹線の更なる延伸や、当地の駅前周辺の整備が進んでいることなど、明るい材料も出てきているようである。
		家電量販店（店長）	・高単価商品の販売数量が伸びてきている。省エネ志向から暮らしにより良い商品の購入意識が高い。
		家電量販店（店長）	・パソコン本体は、前年同期はまだ旧バージョンのOSを搭載した機器からの買換え需要が継続していたため、回復が遅れている。しかしほかの商品、特に季節商材は前年に比べて単価が高く、扇風機やエアコンの高性能のモデルが販売台数を伸ばしており、パソコン以外は単価が上がっている。
		乗用車販売店（従業員）	・ディーゼル車が発売され、客からの問い合わせもあり、期待している。
		乗用車販売店（役員）	・取扱車種の増加、高額車種のマイナーチェンジ、量産車種のモデルチェンジなどが予定されているので、後半期はかなりのばん回できると思っている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・消費者は購買を工夫しているが、決して消費は萎縮しておらず、観光、ショッピング、話題性、感性の高い商品に引き続き興味を持っている様子である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・12月までは、M I C Eの予約を受注しており、堅調に推移すると考えている。その後、1～2月の冬場の景況は今のところ分からない。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は今後も堅調に推移すると見込まれる。レストラン部門では個人消費の低迷をプレミアム付商品券による利用増加で補ってくれると期待している。宴会部門は秋の大会、コンベンションが例年より増加傾向にある。全館では前年よりやや良くなると見込む。
		タクシー運転手	・春先に来た観光客も再訪したいと話していることから、これから秋にかけても観光客が増加する。また、9月の大型連休もあり増える。
		通信会社（役員）	・光通信サービスの提供エリアは継続的に拡大してきており、解約数の減少傾向の中で、純増数は今後とも増加すると考えている。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売に伴い販売数は増加すると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・省エネエコポイントも少なくなってきたので、駆け込み需要が出てくると思う。また、例年秋口は客の動きもよくなるので、お盆明け以降のイベント来場に期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率10%へのアップ前の潜在的需要の掘り起こし及びエコポイントなどの政策による受注高の増加を見込む。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・大都市では景気の回復感が強いようだが、地方ではまだまだそのような風は感じられず、むしろここ1か月ほどは悪化している。まだこの傾向は続きそうだ。		
一般小売店〔書籍〕（従業員）	・定番商品の販売数を伸ばすのは非常に困難で、どうやって売上を維持していくか毎月頭を悩ませている。		

スーパー（店長）	・夏場前のプレミアム付商品券の効果はあるものの、目立って買物需要が良くなっていないように思う。今後、暑さが例年より続けば違ってくるが、何とも見通しが分からない状況である。
スーパー（総務担当）	・8月は旧盆の帰省客などのため売上指数が高いが、ほぼ前年並みに推移すると考えられる。
スーパー（総務担当）	・一般家庭において、給与の増加額より食料品の値上げによる負担が大きいものの、横ばいと思われる。秋に最低賃金の見直しが行われ、一部低所得者にとっては朗報であるが、消費が増えるとは考えづらい。
スーパー（統括）	・未来の景気ということでは、現状は客の購買単価は好調なまま推移しており、今は変わる要素が見当たらない。その中で懸案材料としては、今後青果物の相場がどう動くかによって上下があると思う。
コンビニ（経営者）	・売上が好調なコーヒーなどはあるが、それだけを買っていく客が多く、忙しい割には売上につながっていない。主力商材であるスパゲッティや冷麺などの麺類に関しては前年割れしている状態が続いており、トータルでは良い方向ではなく悪い方向でもない状態である。
コンビニ（経営者）	・現在の状況が、大きく変わる要素は見当たらない。近隣のコンビニ飽和状態に変化がない限り、このままの状況が続くと思っている。
コンビニ（店長）	・会計資料にエリア全店舗の平均が乗っているのでその数値をみると、5年ほど前と比べると日商で10万円以上下がっているのが現状である。収入が減っている一方で、人件費の高騰や平均時給の引上げなどで経費は増加の一途をたどっている。今後、個人でのコンビニ店経営はかなり難しくなっていく、複数店舗所有のオーナーが生き残り、単店オーナーは間違いなく淘汰されると感じている。景気の良さ悪しではなく、私たちのコンビニ業界は全体の売上は増えて、一見景気が良くなっていると誤解されがちだが、個々の店舗ベースでは成り立たないほどの不景気な状況である。
衣料品専門店（経営者）	・今後、オーバーストアーの状況の中、人手不足と賃金の上昇も重なり、良くなる要因はない。
乗用車販売店（経営者）	・ここしばらく販売量が少ないので在庫が多くなってきた。まだ2～3か月は苦しい状況が続くと思う。
自動車備品販売店（従業員）	・タイヤ、ナビゲーションなどの高額商品はますます単価ダウン傾向にあり、客の要望もできるだけ支出を抑えて安価な商品を求めている。市場価格も下がっており、明るい兆しが見えない。
住関連専門店（店員）	・大都市圏と地方の消費回復度の格差はなかなか縮まらず、いまだ回復の実感を持っていない。また為替の影響や、原材料高騰により、物価は上昇するものの、実質賃金に関しては横ばいである。家庭が実際に使えるお金の確保までには至っていないと考える。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・プレミアム付商品券の利用が10月までだが、最初のうちはプレミアム付商品券を利用して買物をする客が多かったが、だんだんと尻すばみになり少なくなっている。他店も同様だと思うが、プレミアム付商品券を使っただけの買物が終わり、お金を使うようになるとまた財布のひもが固くなる。将来的にはそれほど良くなるとは思えない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・客単価は引き続き上昇傾向にあり、家計支出に明るさを感じる。一方、新規競合が開業したことによる客数の分散が懸念され、全体としてはダウン傾向が避けられない。
一般レストラン（店長）	・景気浮揚のきっかけが思い浮かばない。
スナック（経営者）	・国際的、社会的な異変により、心理的にマイナスになる傾向もあり、楽観できない。
観光型旅館（経営者）	・8月の夏休み期間は家族連れを中心に、9月以降は募集型団体旅行を中心に順調に集客できている。また、10月からはJRのディスティネーションキャンペーンや大手旅行会社などの全国キャンペーンが開催され、集客が見込まれる。
観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は6～7月は前年比130%、8月以降は前年比170%以上の予約保有がある。
旅行代理店（所長）	・ビジネスや個人、団体観光旅行を含め、需要が落ち込む要因が見受けられない。
タクシー運転手	・例年であれば、夜の繁華街が忙しくなるのだが、今年は繁華街はあまり人が出ていない感じである。
通信会社（職員）	・新規住宅着工も少なく、また他の急伸要素もない。

	通信会社（営業担当）	・夏商戦にむけ新商品が順次発売され来客数はやや増加傾向にあるが、販売台数に大きな変化はみられない。ボーナス商戦に期待をしている。
	通信会社（店舗統括）	・現在やや上向きになっているが明確な理由が分からず、来月以降の予想が立てにくい。
	通信会社（役員）	・新サービスの光（F T T H）サービスが好調であり、引き続き堅調に推移するものとみている。
	テーマパーク（職員）	・全体的に、県内は北陸新幹線効果が持続し、大体现在の状況が2～3か月後も続いていくものと思われる。
	その他レジャー施設（職員）	・事前申込みも含めて集客ができていない状況で、夏休み後半の集客は期待できない。
	美容室（経営者）	・株価、外国人観光客、円安などの好影響がほとんど感じられない。
	住宅販売会社（従業員）	・これから年内完工に向けて工事現場が大幅に増加するため、資材高騰の影響などによる価格上昇で契約単価との乖離が大きく、利益が低下する。期間損益への影響が必至である。
	住宅販売会社（従業員）	・景気が良くなっている兆しを感じられないためか、展示会の来場者数が増えないと、土地などの不動産が動かないと思う。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・7月に開店したアウトレットモールと大型ショッピングセンター、今後開店する会員制大型量販店の影響、北陸新幹線開業によって交通網が良くなり、消費者が他県へ流れることなどの影響により、今後の消費は分散されるものと思われる。このため、今後当商店街では、売上が思うように増加することはないとみている。
	一般小売店〔事務用品〕（店員）	・北陸新幹線により、人、物、仕事などがますます東京に集中化していくと思う。
	百貨店（営業担当）	・大型ショッピングセンターやアウトレットモールに固定客がついてくると、大変強敵だと思う。
	コンビニ（店舗管理）	・人手不足による人件費の高騰、求人費増に苦しんでいるが、この状況はますます加速すると予想する。
	一般レストラン（統括）	・飲食店では、人手不足でサービスレベルや品質レベルが下がることにより、客離れが発生し、売上減少につながる。また、原材料費の高騰による利益減少もある。この2点の改善見通しが立たない状況である。
悪くなる	-	-
良くなる	-	-
やや良くなる	化学工業（総務担当）	・今後の受注状況は上がる予定である。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・米国市場の受注が改善されると予想している。欧州は円高基調であるが引き続き順調であり、国内は補助金の影響で設備投資意欲が高い。
	通信業（営業担当）	・セキュリティ商材の販売が著しく良い。全国的に在庫切れが発生している。
	司法書士	・会社設立、営業の目的追加、役員の増員など商業登記分野について引き続き相談があり、企業活動が活発になっている感じがある。
変わらない	繊維工業（経営者）	・国内消費の回復に期待感があるものの、まだ少し時間がかかるようだ。
	繊維工業（経営者）	・コスト高により、利益率が思わしくない。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・株高、賃金上昇が個人消費に良い影響を与えるとみているが、周りの景気に影響を与えているようにはみえない。当面消費には回らず様子見が続くと思われる。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の状況を見て、そのように思った。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量、引き合い量も大きく変化しておらず、この状況が当面続くと思う。
	精密機械器具製造業（経営者）	・客により状況が上向き、下向き両方あるものの、全体的には現状のような状態が続くものと思われる。
	金融業（融資担当）	・北陸新幹線効果での景気浮揚はあるだろうが、既に織り込み済みとなり、その持続性に関心が移ってくる。
	金融業（融資担当）	・プレミアム付商品券の有効期限は9月末であり、9月末くらいまでは消費が上向くと思うが、それ以降は新しい政策もないことから、不明というところである。
	不動産業（経営者）	・現在、個人客からの問い合わせも少しずつ出てきていることに加え、法人客からも少しずつ問い合わせが来ている。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・7月の折込広告売上は14か月ぶりに前年を超えた。県内の大型商業施設オープンの影響が大きいと思われる。しかし、通信販売、自動車、住宅関連の折込出稿は依然として停滞気味であったので、8月の前年超えは厳しいのではないかと予想している。

	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・いまだ輸入原材料の価格は値上がりが続いており、原材料の平均単価は右肩上がりとなっている。対応する商品価格の改定についても各社検討している十分な上げ幅が見込めず、厳しい環境が続いている。
		建設業（経営者）	・3月に北陸新幹線が金沢まで開業したので、その後は新幹線関連工事が国、県、市ともに大幅に減少する。また、県工事では新幹線の地元負担金返済で発注量が少なくなることが予想される。
		建設業（総務担当）	・大都市と地方で受注価格競争の二極化が起きつつあり、地方においては今後の受注環境が厳しい状況も予測される。
		輸送業（配車担当）	・北陸新幹線の影響などでサービス業関係の人材が不足しているが、製造業としては円安により原料の単価が上がり価格にも影響が出てきており、個人消費はこれからますます悪くなるように感じられる。
		税理士（所長）	・中国の景気が不透明になってきているのが一番の不安である。回答通りやや悪くなるかどうかは、正直言って中国次第ではないかと思う。当地の中小企業の製造業は、最終製品が大手企業を通じて中国のプラントの部品などに流れていく傾向がある。そういった理由で、当地の特に中小企業の製造業は中国の景気によって大きく左右されるという危険性があり、そうした面で中国の環境を見ながら中小企業への支援が必要ではないかと思う。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・さまざまな企業にヒアリングすると、パートやアルバイトでも時給を上げないと人手が確保できないという話が多く聞かれる。この状況は今年度に入って変わらないトレンドなので、一般労働者の消費状況が悪くなるイメージは抱きにくい。
		職業安定所（職員）	・サービス業において求人数が増加しており、正社員の求人数も若干増加している。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1.39倍と、依然として1倍を超える高い水準にある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・県内の求職人材も不足が言われているので、景気は良い方向に向いていると考えられる。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・登録者数が伸びず、成約に至らない。
		人材派遣会社（社員）	・あらゆる職種で人手不足感はこの先も続くと思われるので、3か月先はさほど変わらないと思う。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・大量雇用を検討している会社の話が出てこない。
		職業安定所（職員）	・各産業では人手不足感がある。仕事を探す人は減少傾向といった状況が続いている。全体的にこう着状態となっており、動きに変化が生じ難い状況となっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人の増加はまだ製造業を中心としたもので、全体に及んでいるかは大手の採用結果が出る9月以降の状況を見ないと判断できない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-